

# カウカウ情報2026

2月市



光都農業改良普及センター

2月11日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が108万9千円、雌が93万8千円でした。

普及センター調べ（税込価格）  
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	9	0.977	1,134,100	2	0.837	1,030,150	11	1,115,200
丹波篠山	3	0.771	796,400	2	0.731	785,950	5	792,220
丹波	15	0.941	1,085,187	21	0.847	909,386	36	982,636
朝来	5	0.975	1,125,300	4	0.821	897,325	9	1,023,978
播磨	19	0.931	1,069,663	12	0.847	908,783	31	1,007,387
美方郡	48	0.937	1,039,683	32	0.861	907,706	80	986,893
豊岡	18	0.964	1,130,983	14	0.829	885,893	32	1,023,756
養父	16	0.983	1,208,763	17	0.887	1,183,924	33	1,195,967
摂津・神戸	4	0.999	1,186,625	4	0.790	790,350	8	988,488
県北C	1	0.941	1,159,400	9	0.808	861,667	10	891,440
市場全体	138	0.948	1,089,367	117	0.846	937,745	255	1,019,799

# 2月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	21	0.984	1,171,133	13	0.861	1,141,292	34	1,159,724
2	忠味土井	21	0.963	1,130,171	9	0.818	917,033	30	1,066,230
3	丸春土井	8	0.936	1,130,938	12	0.832	1,005,308	20	1,055,560
4	悠森土井	10	0.907	1,073,930	8	0.850	961,263	18	1,023,856
5	山伸土井	18	0.932	1,067,550	15	0.931	970,713	33	1,023,533
	総計	138	0.948	1,089,367	117	0.846	937,745	255	1,019,799
6	杉広土井	15	0.971	1,134,687	17	0.812	860,782	32	989,175
7	丸彩土井	16	0.943	932,938	12	0.822	845,717	28	895,557

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

## ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	B	A+	A++	A+	A++	A+
2	忠味土井	B	A+	A	C → B	A+	A+
3	丸春土井	C	B	C	B	B	A+
4	悠森土井	C	C	B	B	C	A++
5	山伸土井	A → A+	A++	D	A+ → A	A+	A
6	杉広土井	C	A+	B	B	A+	A → B
7	丸彩土井	B → C	B → C	A++ → A+	C	A → B	C → D



バックナンバー  
はこちらから

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和7年10月現在)

# 低コスト暑熱対策技術「簡易ミスト」導入事例紹介

近年、夏の猛暑が深刻になる中で暑熱対策の重要性が高まっています。しかし、細霧冷房などの本格的な暑熱対策には多額の費用が必要となる場合も多く、対策がなかなか進んでいない方も多いのではないのでしょうか。そこで、今回はなるべくコストがかからない暑熱対策として水道直圧タイプの簡易ミストを丹波地域で昨年導入した事例をご紹介します！！

## 簡易ミストについて～細霧冷房との違い～

暑熱対策として代表的な技術に細霧冷房があります。細霧冷房とは、水道水を超微細な霧(ミスト)にして空気中に噴霧し、その霧が蒸発する際の気化熱(気化冷却効果)を利用して、牛舎内の温度を下げる冷却技術です。しかし、超微細な霧を噴霧するためには水道水をポンプで加圧して高圧にする必要があり、初期費用に加えて電気代等のランニングコストも必要となってしまいます。

一方で霧の粒径が大きい水道直圧タイプの簡易ミストは、牛の体を霧で一旦濡らしてからそこに風を当てて乾かす際に発生する気化熱により牛の体を直接冷やす技術です。今回の事例では簡易ミストを既存の大型送風機の直前に設置して、発生させた霧を送風機の風に乗せて直接牛の体へ届くように工夫しました(写真)。また、間欠散水タイマーを利用してミストを間欠運転させることで、霧で濡れた牛の体を乾かす時間を確保しました。

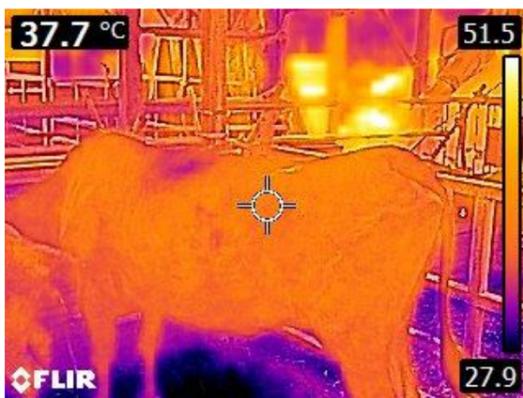


写真 大型送風機と簡易ミスト

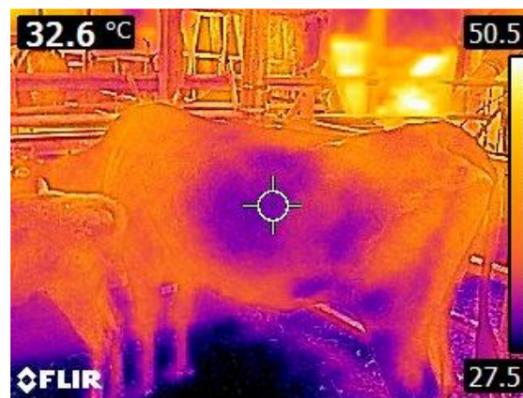
## 導入効果

### 1, 体表温度

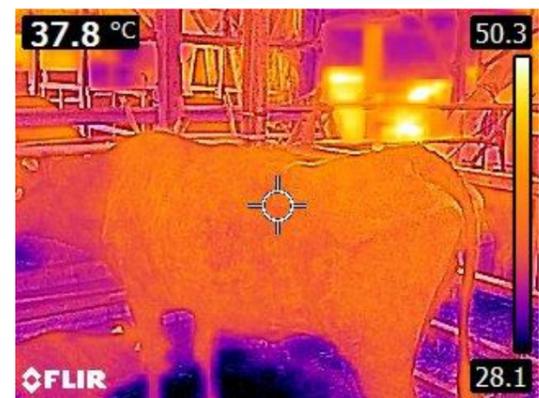
ミスト稼働時の牛の体表面温度をサーモグラフィーで測定してみました。するとミスト開始前の体表温度は 37.7℃でしたが、ミストを1分間稼働して霧を当てることで霧が当たった場所では 32.6℃まで温度が低下し、**ミスト稼働によって体表温度が約 5℃低下**することが確認されました(画像①→②)。その後、間欠運転によるミスト休止中に体表が乾いていく中で温度は上昇し、2分30秒後には元の温度に戻りました(画像③)。



画像① ミスト開始前



画像② ミスト開始1分後



画像③ ミスト休止2分30秒後

### 2, 繁殖成績

表1 繁殖牛8頭の発情発見率、受胎率、妊娠率、次回分娩間隔

	発情発見率	受胎率	妊娠率	次回分娩間隔
ミスト無(6頭)	39%	45%	18%	406日
ミスト有(2頭)	50% (+11%)	67% (+22%)	33% (+15%)	375日 (-31日)

導入農家で夏季(6～9月)に種付けを行う繁殖牛8頭のうち、ミスト有の2頭とミスト無の6頭で発情発見率、受胎率、妊娠率および次回分娩間隔を調査した結果、ミスト有はミスト無に比べて発情発見率が11%、受胎率が22%向上し、妊娠率では15%向上しました(表1)。また、**ミスト有の次回分娩間隔はミスト無に比べて31日も短縮**する結果となりました！

### 3, 費用対効果について

分娩間隔短縮による収益向上効果を試算してみましょう。ミスト無の分娩間隔406日を基準とすると、子牛を販売するチャンスは406日で1回。子牛の販売価格を90万円と仮定すると406日で90万円の販売価格になります。ミスト有では、分娩間隔が31日短縮して375日だったので、375日で90万円の販売価格になります。31日短縮した分の販売価格増加額は1頭当たり68,719円(900,000円×31/406日)となります。今回の簡易ミスト導入および稼働には表2の通り**55,100円の費用が掛かりましたが**、2頭の分娩間隔が平均で31日短縮したので、**収益向上効果は137,438円**(68,719円×2頭)となることから、投資額を大きく上回る収益性向上効果が得られる結果となりました！

表2 簡易ミスト導入および稼働に要した費用

費用	金額(税込み)	備考
簡易ミストセット	40,000円	ノズル、ホース、接続プラグ等含む
間欠散水タイマー	15,000円	5秒単位の散水制御、温度制御
設置費用	0円	農家自身で設置
電気代	100円	単三乾電池2本(タイマー用)
水道代	—	水道代に大きな増減はなかった
計	55,100円	

**夏はすぐに来ます！今から暑熱対策を考えましょう！！**